

山行に行ったら発行

しろうま ニュース

障害がある人もない人も一緒に登山を楽しむ会



4

2014



4月山行

2014年4月27日(日)

奥武蔵

関八州見晴台

(標高 711 m)

幹事 高橋正人

4月山行は日程が決まっていたものの場所も幹事も決まっていなかった。
そこで去年の10月に登った八州見晴台なら下見も不要だし今回は春なので花の季



節。前回とは違った山が楽しめるだろうということでここに決定。だが、同じコースではやはりつまらない。地図や本を見ると黒山三滝から登れるコースがある。だが、行ったことがない！行ったことがないので、やっぱり下見には行かないとまずいと思い一週間前に下見に。天気も悪くしかも寒い。やはり雨男なのか・・・週間天気予報を気にしながら当日に。

一週前の天気予報では気を揉んだが、当日は良い天気です予定どおりの時刻にス



タート。

バスを降りてまずは黒山三滝に向かう。ひとつめの滝は道から外れないと近くまで行けないのでパスして残りの2滝の方へ向かう。奥まったところに2段の滝がある。

滝を見物した後で滝の前の太鼓橋で集合写真を撮ってから、関八州見晴台は向かう。

滝の横から登れる道もあるが、ちょっと急なため来た道を戻って登山開始。登山道は、滝の上に出たあと舗装道路へ。



時々車や自転車が通るが我々以外は、登って来る人はいない。道はしばらく変化がないが山桜やシャガの花が風景を変えてくれる。

舗装道路が終わると再び登山道へ。ひとしきり樹林帯を登ると視界が開けこれから向かう花立峠方面に新緑がひかり輝いている。

車道道路に出たところに満開のさくらがありここでしばし休憩。

少し車道を歩いて見晴台への最後の山道に入る。急登を登り切り尾根道に出て

しばらくいくと見慣れて高山不動の奥の院の社が建つ頂上に到着。

ここでランチタイム。

さすがにこの暖かさだと富士山は見えないが丹沢や秩父の山々が間近に見える。

頂上からの下山路は、満開になればつじのトンネルになるはずのヤマツツジはまだ早くて2,3分咲き。1週間前の下見の時に満開だったオオヤマツツジは既に涸れ始めている。

ああ、みんなに見せたかったのに残



念!

下山は前回とはちょっとコースを変えて高山不動へ用足しの寄り道。ここからは前回と同じ道を下山。

無事、西吾野の駅に到着。

帰りの電車は予想どおり秩父の芝さくらの見物客で込み合う中、ほぼ予定どおりに池袋に到着解散。

今回は、体験初参加の方が4人。感想を聞く限りは楽しんでもらったようで何よりです。入会していただけたとうれしいです。

会計をしてくださった小山さん、参加してくださった皆様ありがとうございました。

半年前に登ったばかりの山でしたが、季節もコースも違ったし何より天気がよかったのがGoodです。

これで雨男も返上だあ〜。でも、今度はずつじのトンネルを見てみた〜い!

■コースタイム

8:00 東武東上線池袋発

9:08 越生駅着

9:29 越生駅発(バス)

9:50 黒山着

10:00 登山開始

10:20 黒山三滝

10:35 黒山三滝発

11:30 舗装路終点

12:10 花立松の峰

13:05 関八州見晴台

<昼食休憩>

13:55 下山開始

14:40 高山不動

16:25 西吾野駅

初参加のOさんから

当日はお天気も良く大勢で歩く山登りは初めてだったのですが、歩きだして不安は直ぐに解消されました。気を遣ってくださり、自分のペースで歩けました。障害者の方々も歩行が早く、驚きました。参加の皆さんも優しくて気さくに声をかけてくださり初めての私もすぐリラックスできました。

体調が悪く山登りは3ヶ月していなかったのかな?と想着ていたのがボランティアの方に助けられ、何箇所か自分で苦手な場所も心配することなく無事帰ってこれました。

また、体調をみて参加できることを楽しみにリハビリに毎日トレーニングを頑張りたいと思います。

体が元気になれば、素敵な景色、綺麗なお花を観れ山の頂上で食べるおにぎりは最高のごちそうです。頑張れば、ご褒美がまっています!

今回初参加させて頂き、とても楽しい山登りを体験できました。ボランティアの皆様、感謝致します。いろいろお世話になりました。ありがとうございました。



下見の時の躑躅(つつじ) →





車いすを降りないプチハイク 5

富岡製糸場

車いすで見学出来る世界遺産・・・

富岡製糸場が世界遺産に登録された。

製糸場自体の規模（見学できる範囲）は大きくない。一応バリアフリーの措置がとられているので、車いすで建造物内を見学することは可能だ。入場料も割引される。おみやげ屋さん（ミュージアムショップ？）は狭いので車いすで入って行くには少々難があるくらい。でもこれはどこでも言えることなのでたいした問題ではないだろう。

製糸場の見学はすぐに終わってしまうから、さて、街を散策しようか、と考えるとこれといって

何があるわけでもなく、車いすが走りやすいようハード的に整備されている、という感じも受けられない。

駐車場に何か工夫があるわけでもない（文化遺産登録前。現在は変わったかも）。一番近い駐車場は入り口に遮断機がある時間貸し。車いす用のスペースが確保されているわけではないので、ここで車いすの出し入れを混んでいる時間帯に行うのは大変骨が折れる。

そもそも近隣（車いすユーザー的な近隣）に駐車場自体がない。「電話をすれば製糸場内に停めて

も良い」とのことだが、そこまではしたくないし世界遺産となった今それはできないことだろう。

富岡を離れて何かしろうまっばい散策ができるかと言うと、これといったところがない。だから車いすでプチハイクしていく意味がない。じゃあなんでここに書いてるかというと2ページ分の埋め草がない…。それで製糸場にまつわる話に触れてみる。

*

日本の生産活動が大きな変換をとり軽工業全盛となった時代、労働階層の娘たちは新しい仕事—

製糸工場の工女さん—として働きに出た。山間の貧しい農家の、それが現金収入であったが、同時にこの時代の若い女たちは、近代日本の基幹産業を担う労働力でもあった。

工女さんという言葉で連想するのは「あゝ野麦峠」。病に倒れた妹を背負って、飛騨に続く険しい山道を兄は歩き続ける。妹は故郷の山の風景を見て兄の背中で息絶える。

泥と紫外線で顔を真っ黒にして働いた農家の女たちだが、凄烈な山越えをして糸紡ぎの出稼ぎに行ったその娘たちもまた、過酷な労働環境で身を粉にして働かねばならなかったとする資料は多い。



一方富岡製糸場についてはあらゆる資料が、現代に通じるホワイトな労働基準をとりあげ、女工哀史とは無縁の恵まれた環境であったとしている。

その後労働者の人権が見直され、工場は嫁入り前の娘たちのひとつの就職先となったに違いない。おそらく最後の工女世代であろう、今は高齢の方々は、その当時を懐かしむ。同じような境遇の娘たちと寝食をともにした日々は、それが学校生活ではなくても、鮮やかな記憶に残るものだ。

*

重工業にウエイトが置かれていく時代の流れの中で、やがて富岡製糸場

も操業を停止する。近年、茨城県西部でも須藤製糸が製糸事業から完全撤退した。あの工場の匂いはっきり言って臭いのだが、繭から糸をとる時のあの独特の匂いを嗅ぐことは、もうない。

富岡製糸場は自然と人の技術の狭間に立地している。富岡IC以降車を走らせると、間もなく信州の厳しくも美しい山々が姿を現しはじめるのである。

諏訪で女工として働いたことを懐かしむ女性は、中部横断道佐久南ICから山あい1時間ほど走った村に住んでおり、娘時代をうれしそうに語ってくれた。



i n f o r m a t i o n

■ 6月山行のお知らせ

日程 : 6月8日(日)【申込み締切:5月31日】
場所 : 伊豆ヶ岳【西武池袋線池袋駅1F改札前 7:45集合】

■ 7月の宿泊を伴う山行のご案内

日時 : 7月19日(土)～20日(日)【申込み締切:5月31日】
場所 : 日光白根山(標高2578m)
宿泊地 : ペンションコスモス
(群馬県利根郡品川村東小川4658-65 丸沼高原第1ペンション村)
集合 : 11:50 東武日光駅 ※詳細はホームページをご覧ください。

■ 9月しろうまの会 25周年記念登山のご案内

行先: 韓国済州島と漢拏山(ハルラ山)ハイキング
日程: 9/19(金)～9/21(日)または22(月)
登山コース: 霊室(ヨンシル)コース、往復約4時間所要



障害がある人もない人も一緒に登山を楽しむ会
しろうまの会

2014年5月17日発行(通巻No.7)

ご連絡・お問い合わせ(お気軽にお問い合わせください): shirouma@sd5.so-net.ne.jp
ホームページ: <http://www.shirouma.net>
facebook: <https://ja-jp.facebook.com/shirouma4620>